

第13回決済システムフォーラム資料

決済システムに関する国際基準の包括的見直し



日本銀行 決済機構局

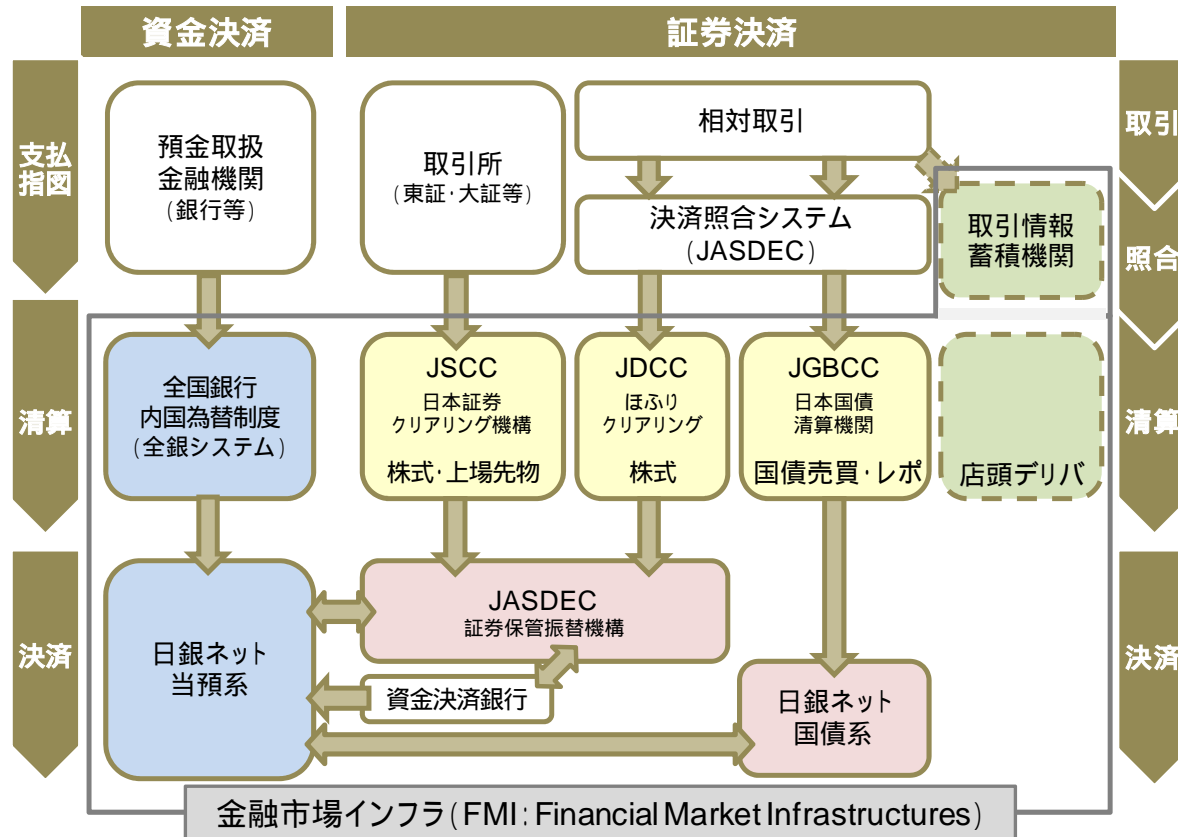
2010年12月14日

経緯

- ・ 国際決済銀行・支払決済システム委員会 (BIS/CPSS) と証券監督者国際機構 (IOSCO) 専門委員会は、本年初めから、**決済システムに関する国際基準の包括的見直し**のプロジェクトを開始。
- ・ 現在、**来年前半の新基準案の市中協議開始**を目標に、検討作業が進められている。
- ・ 決済システムに関する国際基準は、**日本銀行**など中央銀行による**決済システムのオーバーサイトの評価基準**に用いられている。

見直しの対象

< わが国の決済システム >



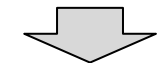
< 現行基準 >

- システミックな影響の大きい資金決済システムに関するコア・プリンシプル
(Core Principles for Systemically Important Payment Systems: CPSIPS) (CPSS、2001年)
- 証券決済システムのための勧告
(Recommendations for Securities Settlement Systems: RSSS) (CPSS-IOSCO、2001年)
- 清算機関のための勧告
(Recommendations for Central Counterparties: RCCP) (CPSS-IOSCO、2004年)

+

< 市中協議案 >

- 「清算機関のための勧告」を店頭デリバティブ清算機関に適用する際のガイダンス
店頭デリバティブ市場における取引情報蓄積機関のための考慮事項 (CPSS-IOSCO、2010年)



< 新基準 >

- 金融市場インフラ (FMI) 向け
⋮

見直しの背景

現行基準運用の経験

- 決済システムにおける相互依存関係の高まり

「決済システムの相互依存関係」
(CPSS、2008年公表)

- ✓ 相互依存関係のもたらす課題に対応した国際基準の見直し

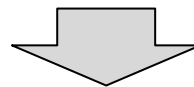
- 業務継続体制の更なる強化の必要性
- 基準間の整合性確保の要請

金融危機で浮上した課題

- FMI は金融危機でも有効に機能。
- しかし、より深刻な事態(システムリスク・シナリオ)にも対応できるよう、FMI のリスク管理を強化すべきとの認識。

金融安定理事会 (FSB)

- 「中核的な金融インフラ・金融市場の強化に関する対応策」の検討の必要性



決済システムに関する国際基準の包括的見直し

金融危機の教訓とこれまでの基準運用の経験に基づいた見直し
3つの基準の統合